



ルーテル学院だより

No.136
2018.8.20

http://www.luther.ac.jp/
発行 ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校
〒181-0015
東京都三鷹市大沢 3-10-20
TEL: 0422-31-4611
FAX: 0422-33-6405

発行人 市川 一宏

授業探訪

「カウンセリング実技の基本」



臨床心理コース
植松 晃子 准教授
(専門分野 臨床心理学、
発達心理学)

今回は「カウンセリング実技の基本」についてご紹介します。

授業では何を学ぶことができますか？

「カウンセリング実技の基本」では、カウンセリングとはどういう心理的援助なのかを理解し、それに必要なものは何かを理解することができ、特にカウンセリングを実践するカウンセラーの臨場の態度やカウンセリングを進めるための技法を中心に学びます。

どのような形式で学ぶのですか？

講義だけでなく、自分の心と身体を実際に動かす体験学習を取り入れています。講義で学んだ内容を自分で感じたりできるようなワークシヨップを実践したり、カウンセラー役とクライアント役を演じてみるロールプレイを行っています。授業の前半は講義が中心ですが、後半は体験学習が中心になっていきます。



カウンセリングは知識だけではなく、どうしても限界がありますので、自分の実感にもとづいて学びを深めてもらおうとしています。

体験学習について詳しく教えてください

例えば、講義の中で「自己一致」について習ったとします。これは「カウンセリング」という心理的援助法を創始したカール・ロジャーズが提案した言葉です。自分とはこういうものだ、という認識（自己概念）と実際に体験したことが一致していることを示します。実はなかなか難しいことなのですが、自己一致の割合が少ないと、例えば「私は親切な人間だ」という認識が、頼まれたことが、嫌だから断る、という体験を認めがたくし、無意識に我慢を募らせたり、断った後に自分を責めたりと心理的な負担を招いてしまします。クライアントの自己一致を支えるためにも、カウンセラーはできるだけ自分の体験に開かれ、自己一致していることが望ましいのです。さあ、このようなことを授業で習ったとしましょう。そして「では皆さんはどうですか？」と尋ねられても、おそらくあまりピンとこないのではないのでしょうか。そこで体験学習を実践すると、自己一致の感覚と自己一致していない感覚について、自分の実感を通して「こういうもののなんだ」と理解していくことができます。実際に体験する時間自体は平均1分から3分、長くても5分ほどです。こんなに短い時間に、沢山の学びが詰まっています。これが体験学習の面白さです。

何人ぐらいで授業を行うのですか？

毎年50人ほどです。この授業は、臨床心理コースだけでなく、福祉相談援助コース、地域福祉開発コース、子ども支援コース、キリスト教人間学コースといった全てのコースに所属する学生が受講できます。臨床心理士や公認心理師を目指す学生だけでなく、将来、社会に出て何らかの形で人と関わる仕事をしたいと考えている学生や、純粋にカウンセリングに興味のある学生も受講していると思います。

この授業の魅力はなんですか？

カウンセリングや、カウンセラーの役割について理論や文献からより正確な知識を伝え、そして毎回新鮮な体験を通じて学んでいくと思っていいます。体験学習は、自分で自分の目標を見つけて取り組むことを重視していきま



すので、いわば一人ひとりの学生が自分に合わせてオーダーメイドのプログラムを作っていくような授業になっていきます。言われたことをやるのではなく、自分で自分のために時間を使えるのが、この授業の魅力なのではないと思います。皆が積極的に取り組みはじめると、笑ったり悔しがったり、教室全体が活気づいてくるんですよ。

臨床心理実習報告

臨床心理コース3年 大石 舞
(都立太田桜台高等学校出身)

私は保育園と、この保育園を運営しているセンターで行われている発達障害のある子どもたちの発達支援プログラムの音楽療法に参加させていただき

ました。まきは保育園は3〜5歳の子どもたちが同じクラスで共に生活する縦割り保育であり、自由保育でもありました。実習中は全力で数多くの子どもたちと接していく中で、子どもたちのやりたことと今やるべきことがあった時に、どの程度子どもたちの意思を尊重するべきか葛藤がありました。しかし、振り返り時に子どもたちの特性、育った環境や背景も含めて丁寧にフィードバックしてくださる園長先生のおかげで納得もでき、新たな気づきも生まれました。そしてあらためて、実習での出来事をふりかえり、自分や相手の気

持ち、行動の意図などを考察して記録をしていくことで、すこしずつ自分自身の思考の傾向や相手のことが理解できていき、次回の目標が立つ、このプロセスが徐々に楽しくなっていきました。今では心理士を目指してよかったと自分の目指す進路への自信ややる気にもつながっています。

音楽療法では、講師の先生が生徒の意思を確認するコミュニケーションの取り方や、教室の進め方を見て信頼関係を築くラポール形成がいかに大事であるかということに改めて実感しました。また、参加するだけでなく観察することも生徒がどのように音楽に触れているかを理解することの一つの方法であり、そこから多くのことを学びました。そして保育園の実習でも子どもたちと接するときに活かすことができました。

実習で学んだことを忘れずに、これからも頑張っていきたいと思っています。

「夏の高校生のための体験講座」を開催して

教授 原島 博

酷暑の夏、7月24日と25日の2日間にわたり、29名の高校生を迎えて「高校生のための夏の体験講座」が開催されました。初日から参加者はコース毎に分かれてユニークなプログラムに参加しました。教員による講義、在学生による実習やインターンシップの体験報告、さらに地域の施設への見学など盛りだくさんの体験講座となりました。すでにオープンキャンパスへの参加経験のある高校生も多く、本学の雰囲気、すぐに慣れ、お互い打ち解けることができました。教室では活発な意見交換



行事予定 9月〜12月

9月8日(土)	AO入試Ⅰ期面談日
9月10日(月)〜13日(木)	集中講義
9月14日(金)	後期授業開始
9月17日(月)	高校生のための体験講座 オープンセミナー
9月24日(月)	(大学院臨床心理学専攻) 一日大学・神学校
9月26日(水)	前期卒業式
9月27日(木)	創立記念礼拝
9月28日(金)	創立記念休日
10月6日(土)	スポーツ大会
10月20日(土)	オープンキャンパス (大学院社会福祉学専攻) 大学院入試
10月27日(土)	修士課程10月期入試
11月3日(土)	AO入試Ⅱ期面談日
11月3日(土)	保護者、編入、社会人のための オープンキャンパス
11月3日(土)・4日(日)	愛・敬・礼(学園祭)
11月24日(土)	公募制推薦・社会人Ⅰ期入試
12月8日(土)	自己推薦・推薦(教会枠)入試
12月12日(水)	クリスマス礼拝
12月15日(土)	オープンキャンパス オープンセミナー
12月24日(月)	(大学院社会福祉学専攻) 臨床心理学専攻 通常授業終了

2018年 秋の高校生のための体験講座

大学での学びを体験型の講義で高校生の皆さんにわかりやすくお伝えします。

9月17日(月・祝) 要予約
ランチ付き

テーマ
「あなたの笑顔を届けよう」

10:00〜16:00 (9:30 受付開始)

高校生のための体験講座は予約制です。

お申込み・お問い合わせ先

企画広報センター TEL 0422-32-2949
メール koho@luther.ac.jp FAX 0422-33-6405



暑さも吹き飛ばし!? 夏祭り

学生会執行部

臨床心理コース2年

大島 かな

(千葉県立東金高等学校出身)

今年度の夏祭りは、執行部の企画担当と礼拝委員会の合同で考案された「祭れ！ 楽しめ！ ～(和)と十(ons)！～」をテーマとして開催されました。例年とは比較にならない灼熱の外気と日差しの下で、鮮やかな浴衣姿が多数見受けられ、夏らしき満点の催しとなりました。

開会礼拝では、テーマになぞらえたメッセージや、太鼓とギター演奏に合わせて讃美歌を皆で歌い踊る「いつくしみ音頭」等、工夫の凝らされた内容が新鮮で、暑さも吹き飛ばす賑やかさと和やかな雰囲気会場も盛り上がりしました。礼拝終了後は流し素麺やかき

氷、きゅうりの浅漬けを始めとした出店に多くの学生や職員の皆様にお立ち寄りいただきました。夕方からの午後の部では、最後に花火が行われ、日中に負けない盛り上がりでした。

今年は、執行部員への団扇の配布、午後のステージ企画を室内開催にするなど暑さに配慮してみましたが、一日を通じて大きなアクシデントも無く、無事に終われたことに安堵しています。様々な反省を踏まえ次回もより良いイベントとなるよう努めていきますので、どうぞご期待ください。有難うございました。



実習報告 児童分野

子ども支援コース3年 磯崎あやめ

私は児童養護施設のグループホームで30日間実習をさせていただきました。午前勤務の日は子どもを起こしに行くところから始まり、午後勤務の日は子どもの寝かしつけで終わりました。また掃除、洗濯、調理、子どもの学習指導を行ったり、一緒に遊んだりしました。実習が始まったころは、子どもがどんなことが好きで得意でどんな特性があるか、遊びや会話、職員との関わりの中で観察しながら好きなことを一緒にやってみる、その中で褒めて自己肯定感を高めることをお手伝いしようと思っていました。

しかし、子どもそれぞれの特性を理解できるようになってくると、どのように子どもに接すればいいのか分からないことが増えてきました。職員との会話で自己肯定感とは褒めるだけでは

なく、苦手なものを子供自身が自己覚知してそれを受け入れ、できなかったものができるようになることで形成されていくということを学びました。

「将来の夢を叶えるためにできることは何か」というのがテーマでしたがそれは勉強など学習面より先に自己覚知、それに繋がる自己肯定感が大切だということが実際に現場で見て肌で感じられ、子どもを観察し理解することが必要なことだと学べました。自己肯定感を得られるきっかけは、特別な場面だけでなく、普段の生活の中に沢山散りばめられていて、それをどれだけ見つけていけるかということが大事なことで現場に行き、職員の話から学びました。

この実習で学んだことを活かし、相手の特性や情報を、何気ない会話でも集中し、できるだけ情報を多く集め、より正確な見立てをできるようになりたいと思っています。

2017年度
社会福祉士合格率

76.5 パーセント

第30回(2017年度)社会福祉士国家試験の現役合格率は76.5%(全国平均合格率30.2%)でした。都内私立大学(現役受験者数10名以上)の合格率第3位です。本学では、3年生からの受験対策支援、正規科目としての受験対策講座の開講、外部講師による特別受験対策講座の開講、年末年始の専任教員による自主勉強会などの国家試験対策指導を行っています。今回の試験結果は、受験生の努力と頑張りはもちろんのこと、このような積み重ねが、高い合格率へと実を結んだ形となりました。

・国家資格

高齢者、児童、知的障がい者、身体障がい者、医療、司法福祉、生活困窮者など、さまざまな領域で相談援助の専門職として働くソーシャルワーカーの国家資格です。福祉系4年生大学において指定科目を履修し卒業すると受験資格が得られます。(大学で取得する場合の条件。)

社会福祉士とは

コンコーディア大学アーバイン校
(アメリカ・カリフォルニア州)との交流

Concordia University - Irvine

教授 ジャン・ブレゲンス

ルーテル学院大学では、姉妹校であるコンコーディア大学アーバイン校から、5月に経営学部を卒業したばかりの9名と引率教員1名を5月16日から受け入れ、10日間の研修を行いました。東京では近隣の企業、また新潟では中小企業を周りました。多くの方にご協力をいただき、新潟では新潟のぞみルーテル教会の皆さまにもサポートしていただきました。

本学の英語の授業に参加したり、英会話サークルの学生たちと東京観光へ行き交流を深めました。

「コンコーディア大学アーバイン校との交流を通して」

臨床心理コース1年 英会話サークル 横田 ゆい

ルーテル学院大学の姉妹校、コンコーディア大学の卒業生(研修生)が1週間来られるということで私たち英会話サークルでは歓迎会と東京観光を行いました。

歓迎会ではくじ引きで各グループに分かれ、日本食を通して交流を深めました。そして東京観光では男女のグループに分かれ、原宿、渋谷、吉祥寺を案内してもらいました。

私はこの2日間、海外の方と過ごす中で自分の語彙力の低さを痛感しました。一つの例を挙げると、お箸の持ち方について聞かれ、説明をする際に英単語がうまく出てきませんでした。その時は、一緒に観光した英会話サークルの友達に手伝ってもらい、説明しました。

また、海外の方と関わって、いつも当たり前に行っている行動に対し、研修生の方が不思議に思い、質問をしてくださり私自身、日本の文化を再認識することが出来ました。

今回の交流を通して外国の人と関わる楽しさと難しさを知り、多くのことを得ることができました。そして、留学にも深く興味をもちました。

英語の勉強をして知識をつけ、今度は私が海外に行ってみたいと思います。



社会福祉士

現場の声

狭山神経内科病院 医療福祉科
社会福祉士 赤嶺ちひろ



今年の3月にルーテル学院大学を卒業して、現在は埼玉県にある神経内科の病院でソーシャルワーカーとして働いています。まだ、先輩方への同行で、担当のケースは持っていないのですが、患者様とお話させていただく機会も少しずつ増えてきています。患者様はほとんどの方が人口呼吸器を装着しているため、お話する際は普段の私たちとの会話とは違い、患者様は透明文字盤を用いて視線でのコミュニケーションを行ったり口の動きを読み取って話をしたりしています。読み取りは少しずつ慣れてきましたが、透明文字盤や口の動きでの訴えは簡単な言葉で伝えられることも多いので、読み取った後にこちらからさらにどのよう

に話を聞きだすか、患者様の言葉に対してどのような引っかけや疑問をもつか、というところが現在の私自身の課題となっています。患者様のことを知ること以外に、自分自身のことを知りたい機会にもなっており、その上でどのように援助をしていくか試行錯誤している段階でもあります。また、学生から社会人という立場になって、私自身の行動が自分だけでなく組織への評価に繋がるため、行動にも責任を伴うということを実感しなければならなくなっていると感じています。現在、病院に入職して3ヶ月経過する中で、ルーテルの講義と現場の業務での差異に気づくこともあり、そこから新たに学ぶ機会もあるのですが、今後、業務の中で迷いを感じたときに、原点に戻ってルーテルで学んだことを思い出し、活かせる良いなと考えています。少しでも患者様やご家族、そして組織に貢献したいという気持ちを忘れず、ルーテルで学んだことを発揮できるよう頑張っていきたいと思っています。そして、学生の皆さまの活躍を心より応援しています。

ホームカミング・パーティー

6/30

ルーテル学院同窓会 役員 遊佐 信生



2018年6月30日(土)午後3時より、恒例行事となったホームカミング・パーティーが同窓会と大学の共催で行われました。今年も、退職された多数の教職員の方々にお越しいただき、卒業生、現職教職員に加え、後援会推進委員会の方々にも参加していただき、100名を超える大盛況の会となりました。

河田チャプレンの祈りと、元ルーテル学院大学教授の清原慶子三鷹市長の乾杯で始まったパーティーでは、卒業生同士や恩師、お世話になった職員の方々との話に華を咲かせました。卒業生10年刻みの出席者は招待者として参加していただき、ステージ上で自己紹介と代表の方にスピーチしていただきました。お互いの近況を知り、明日への励ましをいただいた良い機会となりました。会の締めくくりに、「響」によるハンドベル演奏があり、最後に全員で讃美歌を歌い、会を終えました。

今回、久しぶりに母校に帰ってきた卒業生は、年々整備されすっかり見違えるようになった、ルーテル学院大学・神学校に目を見張っていました。卒業生の皆様、来年はぜひご参加ください。

